

YMCA Camp 100 Stories vol.53



私自身の経験を
子ども達と共に

鈴木 展子

Suzuki Noriko

医療従事者
元野外活動クラスメンバー

▼私とYMCAキャンプとの出会い

私がYMCAのキャンプに参加するようになったきっかけは、私の兄姉達が、当時月に1回の宿泊キャンプを行っていた熊本YMCAインディアンズクラブに参加していること、登山が趣味の母の意向だと思いますが、自然といつの間にかインディアンズクラブのメンバーになっていました。当時は子どもの参加できる野外活動はほとんどなかったと聞いています。

▼キャンプの思い出

キャンプの思い出は、キャンプで唄った歌などもまだ歌えるくらいなので、思い出は断片的ですがいろいろあり、5つくらいの班に分かれており、食事は3食自炊、テント設営、空いた時間でのレクリエーションが主でした。薪割りから火おこし、特にチェックの厳しかった「鍋磨き」は、日常のことでしたがよく覚えています。レクリエーションは、皆で集まっての楽しみや課題や謎を解きながら指示に従ってゴールを目指すイベント、班長と新メンバー、既メンバーでの神聖な雰囲気の中での仲間の儀式、退会する6年生からの夜に秘密のプレゼント等々、沢山ありました。

テント設営は速さと上手さを班ごとに競って、どれも遊び心があって面白かったですが、同時に日常のようにキャンプの基本を教えてもらったように思います。

あるキャンプの夜に雨風がとても強くなり、テントへ浸水し風も強くなりバスに逃げ込み一夜を明かしたこともあり、当時私は子どもでしたので事態の大変さには思いが至らず、次の日には「テントが浸水した」とかしてないとか、「飛んでしまった？飛んでない？」とか、設営技術を言い合ったり、年長者班の技術に感心したりしました。



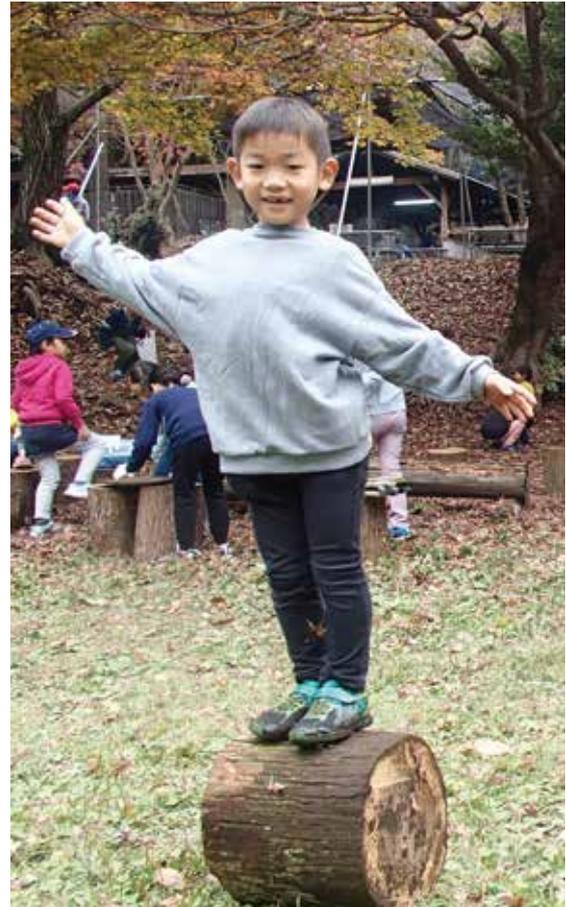
▼キャンプが与える変化

小さい頃からキャンプに参加しているので変わったのかわかりませんが、「ちょっとしたことは気にしない」とご飯に飛び込んだ虫もあまり気にしなかった精神力はキャンプで成長した気がします。

熊本地震で被災した時や子ども達との遊び、BBQ等でも外にテントを張ったり火を起こしたり、何はななくとも一先ずは過ごせ、精神面だけではなく経験的にも自分の能力の一つとして生かしていますし、キャンプメンバーとは、その後も行き来があり学校にはいないような関わりのある仲間として思春期のよい理解者になるなど、キャンプを通じて得られたものは広範囲であり大きいように思います。

▼母となり、これからのキャンプに期待するもの

キャンプに参加することが自然な養育環境で育ったので、私が母となり、我が子も参加可能な年齢に達し、すぐに行かせました。キャンプに参加した後の子ども達はとにかく楽しんで帰って来ます。物理的な狭さやこうるさい親や規則から解放されているのでしょうか。家庭とは違う環境でキャンプの中ではしないといけないことや、してはいけないことも多いと思うのですが、その中で自分の役割や仲間、リーダーとの関わりを通じて自信をつけたり学んだりしています。



《熊本 YMCA の野外活動に参加する 3 名のお子様 阿蘇キャンプにて》

Profile



両親、家族の勧めで小学校1年生より同クラブに所属し、小学校卒業する6年生までの6年間毎月様々な活動をしてきた。その時の経験を我が子にも体験してほしいという願いもあり、現在は、保護者として野外活動クラブに関っていただき、子ども3名も熊本YMCA野外活動クラブのメンバーとして参加している。